

2019.7.25 (木)
第4回例会
(通算 3556回)

2019-2020年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「CONNECT！ロータリーをよく知って より大きい輪をつくらう！」

第83代会長	天方 智順	例会日	毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
副会長	後藤 公貴	例会場	釧路センチュリーキャッスルホテル
幹事	松井 聖治	事務局	釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
編集責任者	クラブ会報雑誌委員会	☎	0154-24-0860
		📠	0154-24-0411

2019-2020年度
国際ロータリーテーマ



2019-2020年度 RI 会長
マーク・ダニエル・マロニー
第2500地区ガバナー
吉田 潤司 (釧路 RC)

月間テーマ

本日のプログラム 全会員ポール・ハリス・フェロー認証に向けて (ロータリー財団委員会担当)

次週例会 新入会員対象者を迎えて (会員増強委員会担当)

■ロータリーソング:「それでこロータリー」

■ソングリーダー: 芦名 健一君

■会員数 98名

■ビジター なし

■ゲスト なし

■ポール・ハリス・フェロー認証 松井 聖治君 (1回目)

■ニコニコ献金

池田 一己君・・・本日の例会、よろしく願い致します。

今年度累計 67,000円

会長の時間

天方 智順会長

皆さま、こんにちは。ずーっと天気悪かったのですが今日は、なにかポカポカして良いですね。やっと釧路に夏が来たという感じがしております。



今日は、例会の内容が『100%ポール・ハリス・フェローに向けて』ということです。いみじくも、松井幹事が今日ポール・ハリス・フェローを受け取られました。

た。なんとなく入会の浅い方も、ボヤッと思われているかもしれませんが、今日の例会の中身を聞いていただくと、クラブで3年前よりそれを目指して取り組んでいることのでございますので、なんとかご理解いただければと思います。

今日は、歴史上の出来事を少し話したいと思います。1969年7月20日は何の日でしょう。何があった日でしょう。だいたいの皆さん、分かっていると思います。「アポロ11号、月面着陸」の日でありました。私は当時5歳です。学校にも上がっていません。はっきり言って記憶がございません。私より年上の方で記憶がある方もいらっしゃるかもしれませ

んし、私より年下の方でまだ生まれていない方もいらっしゃると思います。

そういう中で50周年ということで、いろいろなテレビやマスコミでも取り上げられていました。改めて「月面着陸の瞬間をよくぞ撮ったな。どうやって撮ったのだろう」みたいなドキュメンタリーもありましたし、当時の人類の叡智を結集した50年前のあの月着陸をいまだに鮮明に覚えております。50年前です。釧路ロータリークラブの当時の会長は、1969-70年度、橋本恭次さんとお読みするのですかね。幹事が鈴木信夫さんという方です。その年の理事に国際奉仕委員長で清水幸彦さんがいらっしゃいます。

わがクラブ、83名ぐらいだと思いますので、当時より活発にロータリー活動をされていて、1969年7月20日日曜日に月面着陸でしたので、多分7月24日木曜日の例会で当時の橋本会長がそのことに触れたかどうか分かりませんが、多分触られたのではないかと思います。

なにを言いたいかというと、月面着陸から後50年、いまから後50年、100周年になったらまたそういうことになると思います。そのときに釧路ロータリークラブはもちろんありますよね。その時にはもちろん私も含め皆さんほとんどいませんね。佐藤貴之君ぐらいはまだいらっしゃるかもしれませんが、あと50年先

の話です。

50年後のロータリーの会長が50年前の私のスピーチを見ていただければ、なにか嬉しいなと思います。50年って長いようで一区切りで、人それぞれだと思うのですが、この度、アポロ11号月面着陸のことを思い出して、私もそのように思わせていただきました。

なにかと雑駁な話で申し訳ないのですが、今日の例会の会長挨拶とさせていただきます。今日もよろしくお願いします。

■本日のプログラム■
全会員ポール・ハリス・フェロー認証に向けて

ロータリー財団・奨学推進委員会

木村 豊年副委員長

ロータリー財団の副委員長・木村でございます。佐藤委員長は、今日は出帳のため委員長のあいさつをお伝えしたいと思います。



本日のテーマであります『全会員ポール・ハリス・フェロー認証に向けて』ということで、今日は趣旨説明をさせていただきます。この試みは、邵会長年度よりの方針でございまして、当クラブの吉田潤司会員のガバナー年度に全会員ポール・ハリス・フェロー認証達成という快挙をもって釧路クラブからの「はなむけ」にしたいという思いを引き継ぎ、今年度・佐藤年度中に達成したいものと考えているということでございます。

次の2点について皆さんの協力をお願いしたいということでございます。

1つとして、吉田ガバナー年度に会員の皆さんの協力をもちまして100%ポール・ハリス・フェロー認証を達成したいということでございます。そのために、ロータリー財団の趣旨、あるいは目的を全会員が共有したいと思っております。この釧路クラブが達成することによって、2500地区全体に国際ロータリーの目的の1つ財団への寄付に対する気分を盛り上げたい、ということに繋がっていくのではないだろうかということでございます。

2番目に、この100%ポール・ハリス・フェロー達成にあたり、ポイント移行の公平さを保つためにクラブ内のルールを明確にこの際したいということでございます。これからのことを考えられる皆さんの理解とご協力をお願いするということでございます。それでは、ロータリー財団寄付推進委員会の池田委員長に詳細の説明をお願いしたいと思います。池田委員

長、よろしくお願いします。

ありがとうございます。

ロータリー財団寄付推進委員会

池田 一己委員長

皆さん、こんにちは。ロータリー財団寄付推進委員会委員長を拝命しております池田一己です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

ただいま大委員長代読で当委員会の今回の例会の趣



旨をお話しいただきました。その中でもあったのですが「全会員がポール・ハリス・フェロー」につきましては、邵会長年度から協会長年

度、当年度天方会長年度に申し送り事項として、3年前は「遠く吉田潤司ガバナーが立つ」というところで、当クラブが80年の歴史がある中で100%ポール・ハリス・フェローを達成したことがなかったということがありました。これを吉田潤司ガバナーが立たれる年に達成しようということを、ここ3年間、ずっと申し送り事項としてつないでいただいております。

当初、邵会長年度は、当時白幡財団委員長がこれを動き始めまして、昨年度、私が委員長を拝命しまして、なぜか私今年もまた委員長で。なぜかというのは冗談で、非常に光栄な年に財団の委員長をやらせていただくことを本当に誇りに思っております。ありがとうございます。

本日お話しさせていただきたいことは、協会長年度の5月16日にこのような財団の例会をやらせていただきました。その際に、財団の寄付に関する概要とポール・ハリス・フェローについて、それと今後どのように考えていますよということを5月に発表させていただきました。その中で本年、アッセンブリーとして今月の理事会で上程させていただいて、今後どのようにポール・ハリス・フェローを全員で達成して行くか、それと、先ほどもお話しがありましたとおり、それを達成するにあたって、後でお話しをするのですが、皆さんが持っているポイントというもので現金でお金の負担をしなくてもポール・ハリス・フェローを達成できるというルールがあるのです。ただ、これを財団の趣旨と照らし合わせて、それを乱用されることがないようにそのルールを内規で、クラブ内のルールを指し示して行きたいということで、今日はお話しをさせていただきたいと思っております。

今日お話ししたいことは3つです。5月16日は前年度に当たりますので、今年度また改めて財団の趣旨とポール・ハリス・フェローのことを若干お話しさせ

ていただきます。

それと、ポール・ハリス・フェローの認証をもらうにあたって、クラブ内、釧路クラブ独自のルールを定めて行きたいということをご提案させていただきます。3つ目、最後にそれを達成していくスケジュールを本例会でお話しさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。



前回、例会に出られていない方や入会されて間もない方々で、ロータリー財団というものが何かどうしても欠けていると、何のための寄付なのかとなっ

まうので、それをサッと説明をします。

ロータリー財団の使命とは。ロータリー、われわれは奉仕の団体であって、奉仕には「活動」と「寄付」という2つの大きな柱があると言われていて、この「活動」は常々、皆さんでやっているところなのですが、「寄付」というところの一角を担うものが「ロータリー財団」になっています。

ロータリー財団は、簡単にいうと基金のようなもので、みんなで集めたお金を目的に添って国際奉仕やポリオ撲滅もそうですけれども、世界的な動きとして、うねりとして、みんなのお金を集めて大きな活動につなげて行こうということが使命となっています。

これを最初に興したのは、アーチ・クランフさんという方で、アメリカのオハイオ州の方なのです。この方が1913年、ご自身が所属するクラブの会長をやっていた時に「世界で良いことをして行くためには基金を作ることが適切ではないか」と述べられています。これによって、みんなでそういったお金を集めて世界で良いことをして行こうということが最初ですね。

アーチ・クランフさんが、その10年後にその地区の大会で述べられた文章が残っているのですが、ここで重要なのは、「財団というものをつくるから、ロータリーの会員は奉仕だからみんなは必ずお金を出すように、というような規約をすることはロータリーの団体としての趣旨に反するものなので、あくまでも寄付とは、任意の寄付で築かれるべきだ」ということを述べられています。

当時はかなり金額的にも少なく、「やっていますよ」といったレベルのものでした。ここに記載されているのですが、「例え金額が少ないものであったとしても、これを支えようという気持ちが大きな動きになって行くだろう」ということをこの年にアーチ・クランフさんは言われています。

ここはスライドがないのですが、前回例会で若干お話しをしたのですが、なぜポール・ハリスさんか

というと、この約20年後の1947年にポール・ハリスさんが亡くなります。ここまで財団のお金というのは、全世界で200万ドルに満たないものだったのです。金額的には非常に少ないもので、これを見て、ポール・ハリスさんという方、最初のロータリーの会員なのですけれども亡くなられるときに「自分を悼んで例えば香典のようなものを出すのであれば、財団に寄付をするべきだ。ロータリアンはそういったところにお金を出すべきだ」ということを残されて、1947年、この20年後に亡くなります。

それを聞いて、そこから急激に寄付が集まりました。つまり、財団というものの趣旨や存在を知らなかった方々がどんどん寄付をし始めて、それまでたった200万ドル程度しかなかった財団の財産が、ポール・ハリスさんが亡くなられてから1年半で130万ドル増えるという非常に大きなものになってきました。今日では、この財団は10億ドルという財産を持っています、非常に大きな活動をいろいろとできるようになっているのです。財団のことについてはここまでとさせていただきます。

私も財団の委員長を引き受けて非常に勉強になって、いろいろなことを勉強するようになりましたけれども、やはり興味を持っていただくことが一番なのかと思いました。ポール・ハリス・フェローに全員で向かうということは、そういった趣旨もあり、進めているところです。

それで、ポール・ハリス・フェローとは何かというと、累計で1,000ドルの寄付をすると、ポール・ハリス・フェローの認証を受けることができます。今日松井幹事が素晴らしいタイミングでポール・ハリス・フェローの認証を受けました。これは松井幹事が寄付をすることで1,000ドルに達成したのでポール・ハリス・フェローという認証を贈られたことになっています。

私も今日バッジを付けていますけれども、このバッジです。1,000ドルで約10万円ですか。いま釧路ロータリークラブに所属されている方々は、毎年、会費の中から118ドルの寄付を進めているところです。それで約10年が経つと自動的にポール・ハリス・フェローになるというようになっています。釧路ロータリークラブに入会される方は、こういった寄付の方にも向けていますよとなっています。ですから長く在籍される方は、自動的にポール・ハリス・フェローの認証を受けたり、途中で寄付をして認証を受けるのですが、年数の若い方はまだ少し足りていない状況です。

こちらのポール・ハリス・ソサエティーというものは毎年1,000ドルを寄付していくことを約束された方々に送られる認証です。

一番右側がちょっと重要なのですが、
「100%ポール・ハリス・フェロー」と言われる認証

です。これはクラブの歴史で一度しか受けることができないものです。いままで釧路クラブは84年の歴史がある中で、まだ受けたことがないものを今年度達成したいという流れになっているのです。

ポール・ハリス・フェローのここが少しややこしいところなのですけれども。ポール・ハリス・フェローには認証ポイントが付いて、実際に寄付をした人は、1ドルを寄付すると1ポイントのポール・ハリス・フェローの認証ポイントがもらえます。この認証ポイントは現金で寄付をするものとは別に、皆さんが寄付をした分のポイントを持っているのです。このポイント、何に使うかという、自分の認証ポイントを使って、それを他の人に移譲して自分以外の人をポール・ハリス・フェローにすることができるというルールがあります。

例えば、1ドル100円と考えたときには、500ドル寄付をした人は500ポイントを持っています。そうすると、自分は500ドル寄付をして累積500ドルを財団に寄付をした立場であって、500ポイントを持っているのです。他の人に500ポイントをあげて、その人が500ポイントを持っていると、足して1,000ドルという形で、現金を支出しないでポール・ハリス・フェローになることができるというものがあります。

初めて聞かれる方などは違和感があるのは当然で、「財団の寄付なのに、寄付じゃなくてもポール・ハリスって取れてしまうの」という違和感が若干あるかと思えます。そういった形で認証ポイントがある。この認証ポイントは広くポール・ハリス・フェロー、財団というものを知らしめるためにこういった措置が取られています。

そこで、これをやると実は、先月6月末で釧路クラブ会員、皆さんが持っているポイントが17万ポイントも積まれています。逆に、ポール・ハリス・フェローになるまでに不足している金額は18,000ドルとなっています。18,000ドルを現金で入れれば早い話なのですが、現金を入れなくても皆さんが持っているポイントを移譲・譲り合うとポール・ハリス・フェローを達成してしまいます。ただし、これだけでポール・ハリス・フェローだ、あるいは100%だ、ということは皆さんもご存じのとおり財団の趣旨には添っていない、直結しているものではないので、こういうポイントの移譲についていろいろなクラブが様々なルールを定めています。

例えばなののですけれども、近場では、北クラブや南クラブ、根室クラブがそういったルールを設けています。例えば北クラブは、「ポイントの移譲を受けたら、その分を北クラブが注力している坂本新世代育成基金に募金してください。寄付をしてください」というお願いをしています。

南クラブの場合は「ポイントを一時借りる。今年ポール・ハリス・フェローになりたいから一時借りて、達成したなら3年以内にクラブに返還する。自分のポイントを今度はクラブの方に返還する」と、借りるというイメージで進めているクラブもあります。

根室クラブは、「現金で1,000ドル以上の寄付をしない限り、ポイントの移譲はさせない」という形です。なぜかと言えば、毎年毎年、皆さん会費の中から現金で積んでいる方がいる一方で、なにも現金を積まずにポール・ハリス・フェローになるというところの公平感を維持するために各クラブでこういったルールを独自で定めているという流れがあります。

釧路クラブで、じゃ、ルールをどうするかということも前年度の理事会の方々にもご協力をいただきながら吟味して、今日、案を皆さんの手元に置かせていただいています。皆さんのテーブルにA4の1枚物の「ロータリー財団認証ポイント利用に関する内規について」があります。これは内規でして、定款などの必要はなく、あくまでもクラブの中のルールということに置いてあります。これは、今年の理事会で承認をいただいておりますので、この概要を皆さんに説明したいと思います。



まず、釧路クラブのルールの概略です。「ポイントの移譲を受けた会員は5年以内に受けたポイントの相当額をロータリー財団・嵯峨基金・米山基金のいずれかに寄付することを求めます」ということを義務づけるところです。

「ただし、転勤等やむを得ない事情の退会という場合は、前任者（転勤をされる方）が次に来られる方にポイントを引き継いで、特段過去5年以内に受け取ったポイントを返さなければいけないことを免除する」という規約を設けます。つまり転勤をされるような方々は、次の会員に引き継いで行けば、この5年というのが猶予されていくとしてあります。

それと「やむを得ない事情がある場合は、当該年度の会長が理事会に諮って、これを免除する」というのを設けてあります。なによりも大事なことは、この規約というルールというよりは、そのロータリー財団の趣旨というものをきちんと理解してもらい、タダでポイントももらって、ただ放置することではなくて、それを意識してもらおうということが非常に重要になってくると思います。

今日のお話、最初から最後までそうなのですけれども、ロータリー財団をよく知ってもらうことで、「ポイントだけもらうのはちょっといずいな」という気持ち

持っていただければ、というところが目的になっています。

いま現在、私は入会が浅いので実際には現金を支出しないとポール・ハリス・フェローをもらえなかったのですけれども、間もなく今年度の会費から寄付することで自然に達成される方もいらっしゃるし、今年度あと数千円を入れてもらえれば達成するという方もたくさんいらっしゃいます。そういった方々は、ぜひご自身の少しの寄付を入れていただき、達成していただきたいということが本音です。

そういったところ、今後どのようにポール・ハリス・フェローを全員で達成して行くかというスケジュールを最後にご説明します。

スケジュールとしては、今年の5月16日に、例会で認証ポイントの利用について今日の概略をご説明して提案させていただいています。今月7月の理事会で、今日皆さんのお手元に置いてある内規について承認をいただきました。今後、今日、皆さん例会でこういったことを発表させていただいたうえで、来月からポイント移行を開始、進めさせていただきたいと思います。10月ぐらいまでには、実際に寄付をしていただく方、それからポイントを受け取ってポール・ハリス・フェローを達成する方で、だいたい10月いっぱいを目途にいま現在所属する全会員のポール・ハリス・フェローを達成したいと思っています。

あまり詳しく話すややこしいことになるので、スライドに載せていないのですけれど。ポイントというものは個人個人、人それぞれが持っているものに加えて、クラブが所有するポイントもあります。釧路ロータリークラブが持っているポイントもあり、このポイント自体、実は1万数千ポイントあります。このポイントは人からもらうというよりは、クラブから預かるような形のポイントになるので、あまり、人から人へというところをややこしくせずに、ポイントの移譲をして行きたい。今日、内規として皆さんに配布しているルールで縛りがあるように、ちょっとポイントを受け取るのに抵抗があるという方もいらっしゃると思います。そういった方々とは個別に少し話をさせていただきながら、現金で入れていただいても良いですし、あるいは「この人からだったら借りても良い」という方から直接ポイントを借りて達成するなど、そういったところで、概ね10月いっぱい達成したいと考えています。

早急にメールなどで案内をさせていただきますが、間もなく達成できるという方々は、8月・9月を目途に現金で寄付を入れていただいて、達成にご協力いただければと思っております。

以上です。

今日100%達成するというところが、ただただ唯々100%を達成すればいいが目的ではなく、ガバナーを

出している釧路クラブが100%を達成することで、皆さんに注目され、「その100%ポール・ハリス・フェローとは何」と、いままで意識がなかった方も目を見張り始めると思うのです。そういった大きなうねりを、吉田ガバナーを出している釧路クラブが発信することによって、2500地区であったり、ロータリー全体の、また財団の寄付というところを盛り上げて行くことができるかと思えます。

それと、もうひとつ。私も委員長を拝命して全然知らなかった財団、まだまだ勉強途中で、まだまだ奥深いものがあって、あまり細かい質問をされると困りますけれど、まだまだ「勉強をしなくちゃ」ということが学ぶほどに思えます。

今年ガバナーが「知らずで語れず」ということ言われて、天方会長は「ロータリーをもっとよく知って大きい輪を作っていこう」という方針を掲げているとおおり、私たちが知らない、寄付をもっと盛り上げていこうとか、ロータリー財団って使うのは知っているけれど自分たちが捻出することを知らない、財団自体が盛り上がっていかないと思えます。われわれがポール・ハリス・フェローというバッジを持つことによって、「あれ、これなんだっけ」というところに意識を持って、みんなが知ってロータリー財団という寄付の行為をもっともっと盛り上げていくところを目的にしたいと思っています。

84年の歴史と伝統あるこのクラブで、初めて「100%ポール・ハリス・フェローを達成しよう」というこの年に、それを取ることが目的なのではなく、私たちが寄付をしてこの奉仕をもっと加速させて行くことにつなげて行ければと思っております。

何卒皆さんのご理解とご協力をいただきたいと思います。今日は、発表とお願いということで、当委員会の例会担当とさせていただきました。ご静聴いただきましてありがとうございます。

Return
to
Top

Return
to
Web Site